

## 2. 家での学習の様子

### ① 家庭学習の頻度

中学生の家での勉強は、「週に半分以下しかしない(2～3日)」が全体の4分の1で最多。全般に学習頻度が著しく少なくなったという事実はないが、「家ではほとんど勉強しない」中学生が第2回調査よりも6.4ポイント増加している。

#### Q

家での勉強についてうかがいます(学習塾や予備校、家庭教師との学習は除きます)。あなたはふだん、家でどのくらい勉強をしますか。

第3回調査でも、家での学習の量的な特徴を、(1)1週間の勉強日数、(2)1日の勉強時間、(3)テスト勉強の開始時期の3つの側面からとらえた。

まず、中学生は週に何日くらい勉強しているのか。全体としてみると、「週に半分以下しかしない(2～3日)」とする者が24.7%と最も多い。これに、「家ではほとんど勉強しない」がほとんど同率で続き(23.1%)、「週に半分以上はする(4～5日)」も2割を超えている(21.1%)。「ほとんど毎日する(週に6～7日)」も18.7%を数えており、1週

間の勉強日数の個人差は大きい(表1-1-5)。

時系列でみると、「週に半分以上はする(4～5日)」と「週に半分以下しかしない(2～3日)」の占める割合が若干小さくなり、逆に「家ではほとんど勉強しない」が第2回調査と比べて6.4ポイント増えているのが目立った特徴である(同表)。ただし、「ほとんど毎日する(週に6～7日)」の割合に大きな変化はみられず、学習頻度(勉強日数)の点からみれば全体に中学生が勉強しなくなったとはいえない。

表1-1-5 家庭学習の頻度(時系列)

	(%)		
	第1回(2544)	第2回(2755)	第3回(2503)
ほとんど毎日する(週に6～7日)	19.9	18.7	18.7
週に半分以上はする(4～5日)	27.0	23.0	21.1
週に半分以下しかしない(2～3日)	26.8	29.1	24.7
週に1日くらいしかしない(1日くらい)	8.9	11.6	11.3
家ではほとんど勉強しない	17.1	16.7	23.1

注)( )内はサンプル数。

## ②家での学習時間

平日の家庭学習時間に関して、「ほとんどしない」と「およそ30分」という中学生が30.7%に達し、第1回調査よりもおよそ12ポイント増加した。逆に、テレビの視聴時間は、大幅に増加している。

### Q

あなたはふだん（月曜日～金曜日）学校での授業以外に1日に何時間くらい勉強していますか。学習塾や予備校、家庭教師について勉強する時間も含めてください。

日曜日は、家で何時間くらい勉強しますか。学習塾や家庭教師について勉強する時間も含めてください。

ふだん（月曜日～金曜日）テレビを1日に何時間くらい見ますか。

### 《家庭学習時間》

1日の学習時間についてはどうか。「学習塾や予備校、家庭教師について勉強する時間」を含め、学校での授業以外で勉強に費やす時間を尋ねた。

まず、「平日（月曜日～金曜日）の学習時間」をみってみる。もっとも多いのは「1時間」で2割を占める（20.8%）。とはいえ、「ほとんどしない」～「2時間」と回答した者の割合はいずれも15%前後となっており、ここでも個人差の大きさが浮き出ている（図1-1-4）。顕著なのは、第1回・第2回調査時点からの変化である（同図）。「ほとんどしない」と「およそ30分」という短い学習時間の層が、第1回調査では18.8%にすぎなかったが、第2回調査では微増し、さらに第3回調査では30.7%に達した。10余年でおよそ12ポイントの増加である。

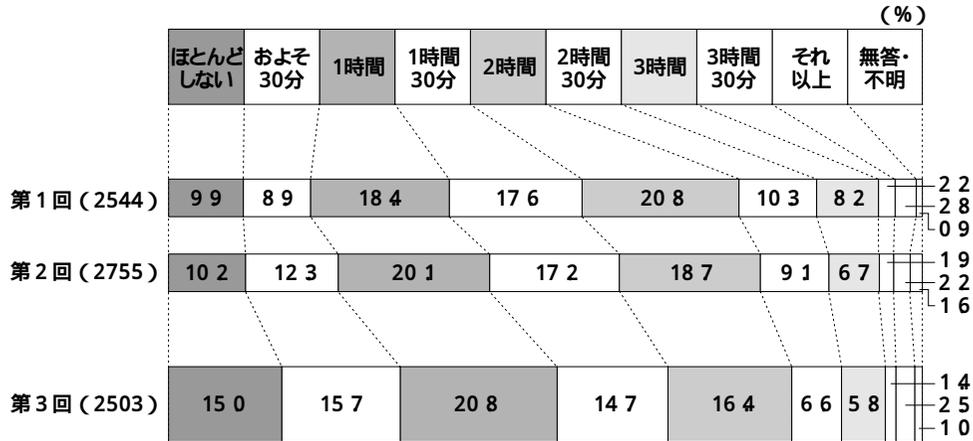
「日曜日の学習時間」についてはどうか（図1-1-5）。もっとも多いのは、「ほとんどしない」で全体の3分の1を占める（34.2%）。これに、「およそ30分」と「1時間」がいずれも17%台で続いている。時系列変化も目立っている（同図）。「ほとんどしない」層の割

合は、この5年間で10ポイントも増加し（24.1%→34.2%）、「およそ30分」も4.4ポイントの増加となった。その分、「1時間30分」以上を勉強に費やす中学生の割合が減ることになった。

### 《テレビ視聴時間》

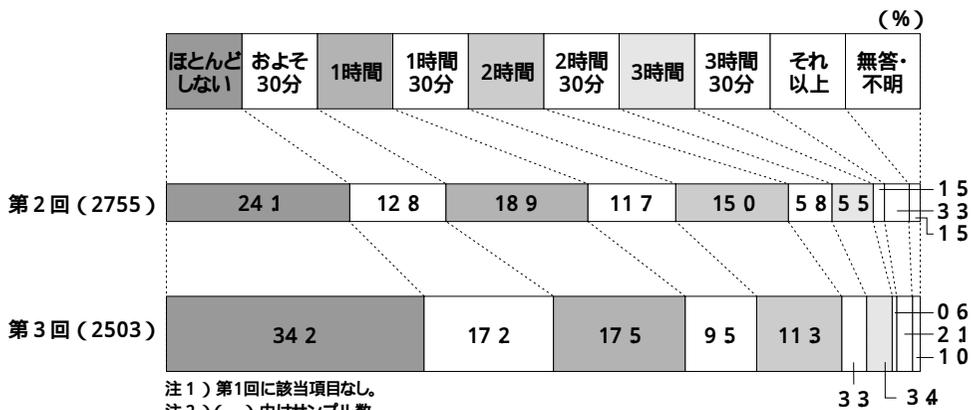
学習時間とトレード・オフ関係にあるといわれる「テレビの視聴時間」についてはどうか。「ふだん（月曜日～金曜日）」の視聴時間をいくつかのカテゴリーに分けて、分布の様子をみた（図1-1-6）。これによると、もっとも多いのは、「3時間30分」よりも長い「それ以上」の層であり、全体の3割程度を占める（30.9%）。一日に「2時間以上」テレビを見る中学生は83.1%に及んでおり、「ほとんど見ない」という中学生は、わずか1.9%にすぎない。「テレビ漬け」ともいえる生活は、一昔前と比べてますます際立ってきた。「それ以上」と回答した中学生の割合は、この間に13.4ポイントも増えている（17.5%→30.9%）。とりわけ、この5年間の変化が顕著であり、増えた視聴時間の大半は直近の5年間に生じたものである。

図1-1-4 平日の家庭学習時間（時系列）



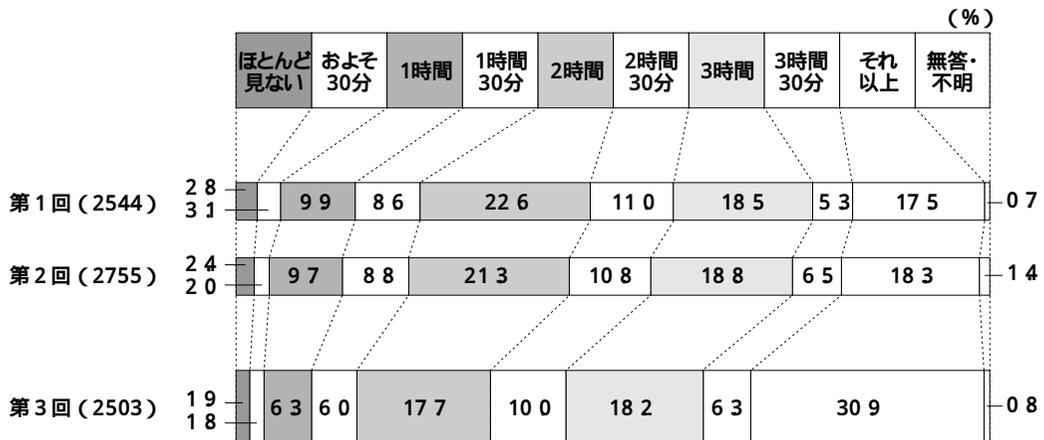
注) ( )内はサンプル数。

図1-1-5 休日の家庭学習時間（時系列）



注1) 第1回に該当項目なし。  
注2) ( )内はサンプル数。

図1-1-6 平日のテレビ視聴時間（時系列）



注) ( )内はサンプル数。

### ③ テスト勉強の開始時期

「1週間くらい前から」定期考査の勉強を始める中学生が全体の3分の1。  
 「1週間くらい」以前に準備を始めるケースが4分の3に及ぶ。第1回・第2回調査よりも開始時期が遅くなっているというわけではない。



テスト（定期考査）前には、あなたはいつ頃からテスト勉強を始めますか。

中学生は、定期考査に向けた勉強をいつ頃始めているのか。テスト勉強の開始時期を手がかりに、中学生の家庭学習の量的な特徴を探ってみる（表1-1-6）。

全体として、もっとも多いのは「1週間くらい前から」であり、全体の3分の1がこれに該当する（32.3%）。続いて、「2週間くらい前から」（24.3%）、「10日くらい前から」（18.7%）となっている。「1週間くらい」以

前に準備をする中学生が4分の3に及んでいる。「ほとんどしない」はわずか3.3%である。なお、比較的早くから準備する割合は、女子の場合に若干大きくなっている。

さらに、少なくとも定期考査の勉強の開始時期が遅くなっているという事実は見当たらない（同表）。「2週間くらい前から」にいたっては、第1回調査よりも5.4ポイント増加しているほどである。

表1-1-6 テスト勉強の開始時期（時系列・性別）

(%)

	第1回 (2544)	第2回 (2755)	第3回 (2503)	第3回	
				男子 (1307)	女子 (1184)
2週間くらい前から	18.9	20.0	24.3	21.9	< 26.9
10日くらい前から	20.9	22.6	18.7	18.8	18.6
1週間くらい前から	30.5	31.9	32.3	31.7	33.0
4～5日くらい前から	12.5	12.1	9.5	9.3	9.9
2～3日くらい前から	10.0	7.9	8.4	9.1	7.5
前日から	2.6	2.3	2.4	3.3	1.4
当日の朝くらい	0.7	0.4	0.6	0.8	0.3
ほとんどしない	3.4	2.2	3.3	4.4	2.1

注1) < > は男女で5%以上差があるもの。

注2) ( ) 内はサンプル数。

## ④家での勉強内容

全体に女子の実施率が高い。家での勉強の中心は「学校の宿題」である。「学校の授業の予習」「学校の宿題」「学校の授業の復習」が5ポイント程度減少し、学校の授業にかかわる勉強が次第に後退しつつある。



家では主にどんな勉強をしていますか。

これまで、家での勉強の量的な側面に焦点を合わせてデータを眺めてみた。以下では、「どのような内容の学習をどのように進めているか」という面について、検討を加えることにする。

まず、「家での勉強の種類」について8つ(第3回)の選択肢を用意し、複数回答を求めた(表1-1-7)。もっとも実施率が高いのが、当然ながら「学校の宿題」である。全体の84.5%が該当する。これとはずいぶん開きがあるが、「学校の授業の復習」(42.0%)が続いている。これらからさらに水をあげられて、「塾や予備校の授業の予習・復習」「書店などで売っている問題集・参考

書」「『進研ゼミ』のような通信教育」が25%前後で続き、「学校の授業の予習」も2割を超えている。なお、性別にみると、ほとんどの項目で女子が男子を上回って実施している(「塾や予備校の授業の予習・復習」を除く)。

第1回・第2回調査と比べて、大きく減っているのが「宅配の家庭学習教材」であり、12ポイントほど減じている。さらに、「学校の授業の予習」「学校の宿題」「学校の授業の復習」がそれぞれ5ポイント程度減少しており、家庭での勉強が学校の授業と切り離されている様子がうかがえる。中学校で「宿題が出されなくなった…」といわれる現象も、この変化の一端を表しているのかもしれない。

表1-1-7 家での勉強内容(時系列・性別)

	第1回(2544)	第2回(2755)	第3回(2503)	第3回	
				男子(1307)	女子(1184)
学校の宿題	89.9	87.6	84.5	80.4	< 88.9
学校の授業の予習	27.8	24.8	21.9	20.2	23.7
学校の授業の復習	46.3	47.5	42.0	38.7	< 45.7
塾や予備校の授業の予習・復習	—	—	26.5	26.5	26.5
塾や予備校の授業の予習	11.6	12.3	—	—	—
塾や予備校の授業の復習	15.3	17.5	—	—	—
「進研ゼミ」のような通信教育	19.1	28.6	23.2	20.0	< 26.5
宅配の家庭学習教材	18.5	8.9	6.4	5.3	7.5
書店などで売っている問題集・参考書	—	31.1	24.7	20.7	< 29.1
その他	5.4	4.8	5.3	4.8	5.7

注1) 複数回答。 注2) —は該当項目なし。 注3) < >は男女で5%以上差があるもの。 注4) ( )内はサンプル数。

## ⑤家での学習の様子

「出された宿題をきちんとやっていく」は91.3%と高率である。第2回調査で増えた学習の習慣化にかかわる項目で、さらに肯定的な回答が増えた。「ながら勉強」は第2回調査よりもさらに多くの中学生に広がっている。



家での勉強の様子についてうかがいます。

第3回調査では、家での学習の様子を探るために、全部で11項目（今回新設の2項目を含む）を設定した。

「あてはまる」「まああてはまる」と回答した割合が大きかったのは、「出された宿題をきちんとやっていく」で全体の91.3%が該当した（表1-1-8）。これに、「嫌いな科目の勉強も一生懸命する」（72.6%）、「家族に言われなくても自分から進んで勉強する」

（61.7%）、「自分で興味を持ったことを、学校の勉強に関係なく調べる」（59.1%）、「ラジオやテレビ、CDをつけっ放しで勉強する」（57.4%）、「机に向かったら、すぐに勉強にとりかかる」（56.8%）という状況が比較的多くみられる。

変化についてはどうか（図1-1-7）。第2回調査では、「計画を立てて勉強する」など学習の習慣化にかかわる項目で肯定的な

表1-1-8 家での学習の様子

(%)

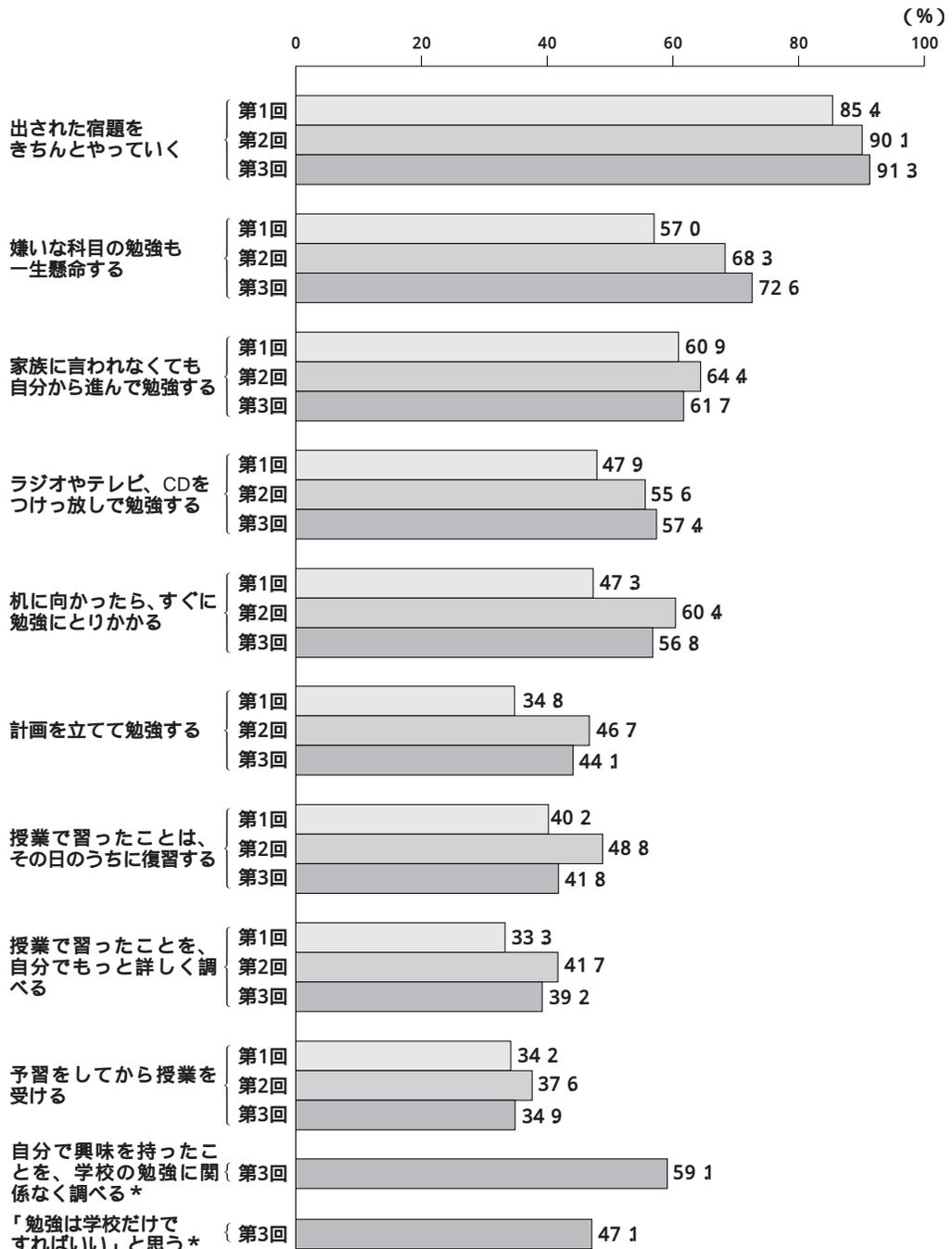
	あてはまる	まああてはまる	あてはまる + まああてはまる
出された宿題をきちんとやっていく	40.5	50.8	91.3
嫌いな科目の勉強も一生懸命する	19.9	52.7	72.6
家族に言われなくても自分から進んで勉強する	19.3	42.4	61.7
ラジオやテレビ、CDをつけっ放しで勉強する	33.1	24.3	57.4
机に向かったら、すぐに勉強にとりかかる	10.7	46.1	56.8
計画を立てて勉強する	10.9	33.2	44.1
授業で習ったことは、その日のうちに復習する	8.3	33.5	41.8
授業で習ったことを、自分でもっと詳しく調べる	3.9	35.3	39.2
予習をしてから授業を受ける	6.1	28.8	34.9
自分で興味を持ったことを、学校の勉強に関係なく調べる	25.9	33.2	59.1
「勉強は学校だけですればいい」と思う	14.8	32.3	47.1

注) サンプル数は2503人。

反応が増えたが、第3回調査でその水準を維持するだけでなく、「嫌いな科目の勉強も一生懸命する」という回答がさらに4.3ポイント増加した。そんな中で、「ラジオやテレビ、

CDをつけっ放しで勉強する」に「あてはまる」と回答した割合が第1回調査と比べて12.8ポイント、第2回調査と比べて7.1ポイント増加した点が目立つ（基礎集計表参照）。

図1-1-7 家での学習の様子（時系列）



注1) 数値は「あてはまる」と「まああてはまる」の合計。

注2) \*は第1回、第2回に該当項目なし。

注3) サンプル数は第1回2544人、第2回2755人、第3回2503人。

## ⑥ 日常生活の中での「学習」

中学生にとってもっとも日常的な学習活動は、「読みたい本を本屋で探して買う」である。「美術館や博物館に行く」「日記をつける」はあまりなされない。「日記をつける」「ペットや動物・植物の世話をする」は女子に顕著である。



あなたは、ふだん（学校の授業や宿題以外で）次のことをどのくらいしますか。

第3回調査では、学校での授業や宿題以外に中学生がどのような学習活動を行っているかを尋ねた（表1-1-9）。設定した9つの項目の中で、中学生にとってもっとも日常的な学習活動は、「読みたい本を本屋で探して買う」（「よくする」「時々する」の合計：69.4%）であり、「ペットや動物・植物の世話をする」（52.5%）も半数を超えている。「文学作品や小説・物語を読む」（44.3%）や「新

聞のニュース欄を読む」（41.9%）も比較的多い。これに対して、「美術館や博物館に行く」（13.2%）、「日記をつける」（19.4%）、「自然や動物・植物の本を読む」（23.2%）は中学生にとってはなじみの薄い学習活動である。

全般に、女子のほうがこれらの活動にかかわるケースが多く、特に「日記をつける」と「ペットや動物・植物の世話をする」は女子にひときわ顕著である。

表1-1-9 日常生活の中での「学習」（性別）

	（%）		
	全体（2503）	男子（1307）	女子（1184）
読みたい本を本屋で探して買う	69.4	67.1	71.8
ペットや動物・植物の世話をする	52.5	44.6	61.1
文学作品や小説・物語を読む	44.3	36.5	52.7
新聞のニュース欄を読む	41.9	43.0	40.3
地域の図書館で本を読んだり借りたりする	30.9	27.1	35.1
歴史小説や歴史の本を読む	28.4	32.1	24.3
自然や動物・植物の本を読む	23.2	24.7	21.5
日記をつける	19.4	9.4	30.6
美術館や博物館に行く	13.2	9.3	17.6

注1) 数値は「よくする」と「時々する」の合計。

注2) <>は男女で10%以上、< >は5%以上差があるもの。

注3) ( )内はサンプル数。

## 7 家庭環境

「勉強部屋を持っている」中学生がおよそ3分の2に達する。「親とよく話をする」中学生も同じ程度の割合を占める。成績に対する母親の関心は高いが、具体的に「勉強をみる」などのかかわり方は比較的少ない。



あなたの家のことについてうかがいます。

中学生の家庭環境は、さまざまな形で彼らの学習に影響を及ぼす。ここでは、10項目を設けて、該当するかどうかを尋ねた（表1-1-10）。

まず、物質的な環境として、「自分一人の勉強部屋を持っている」が64.1%に及んでいる点が注目される。3人に2人は自分だけの学習空間が用意されている。「家には本（マンガや雑誌以外）がたくさんある」という中学生も58.2%に及ぶ。なお、この点はこの10余年にわたって変化していない。

次に、父母とのコミュニケーションについてはどうか。「お父さんやお母さんとよく話をする」が66.6%を数え、特に、「お母さん

は私の成績をよく知っている」という中学生が84.1%に達している。なお、「お父さんは私の成績をよく知っている」という回答は53.2%にとどまっている。これに対して、「ほとんど毎日、家の人は私に『勉強しなさい』と言う」（35.0%）ことも比較的少なく、「この1か月の間に、お父さんやお母さんに勉強をみてもらったことがある」（25.0%）とか「家の人に博物館や美術館に連れていってもらったことがある」（40.4%）という具体的なかかわり方はあまり一般的とは言えない。なお、大学・短期大学の進学率上昇にともなって、父母の「高学歴化」が進んでいる。

表1 - 1 - 10 家庭環境（時系列）

（％）

	第1回（2544）	第2回（2655）	第3回（2503）
家には本（マンガや雑誌以外）がたくさんある	58.2	58.2	58.2
自分一人の勉強部屋を持っている	62.7	62.8	64.1
ほとんど毎日、家の人は私に「勉強しなさい」と言う	38.2	36.9	35.0
この1か月の間に、お父さんやお母さんに勉強をみてもらったことがある	—	—	25.0
お父さんやお母さんとよく話をする	—	—	66.6
お母さんは私の成績をよく知っている	82.8	79.7	84.1
お父さんは私の成績をよく知っている	50.3	49.3	53.2
家の人に博物館や美術館に連れていってもらったことがある	42.6	46.0	40.4
お父さんは大学を卒業している	31.3	35.3	41.3
お母さんは大学や短期大学を卒業している	24.7	29.7	38.4

注1）複数回答。

注2）—は該当項目なし。

注3）（ ）内はサンプル数。第2回調査は、回答を拒否した100名を除外して計算した。